

しずおか福祉

〒425-8611 静岡県焼津市中中根549番1 TEL.054-623-7000 FAX.054-623-7453 http://www.suw.ac.jp

地域での活動とその効果

医療福祉学科教授 相原 真人

大学の大きな特徴の一つは「地域と密着した教育」にあります。多くの先生方が、焼津や志太地区の地元地域の現場に足を運び、学生とともに様々な問題にとりこんでいます。

そうした地域のとりくみについて、今回は、医療福祉学科の相原真人教授に聞いて見ました。

問 まず、先生のご専門について教えてください

相原 専門は児童家庭福祉です。以前、児童相談所の児童福祉司をしていたこともあり、親に虐待されたり家庭で生活できなくなったりする子どもたちを数多く見てきました。現在は



相原真人先生

そのような社会的に養護を必要とする状況を作らないための予防的な取り組みをテーマにした活動や研究に取り組んでいます。特に、ホームスタート・ジャパンという全国組織の推進委員として、親の子育て意欲を高める活動の普及に力を入れています。

問 本学が所在する地域での活動としてはどのようなことをされているのですか？

相原 私の研究室では地域の施設や機

関との関係を重視しています。具体的には児童養護施設や里親支援機関、ノーバティーズ・パーフェクトという親業教育に取り組んでいるNPO等で、私自身が講演を依頼されたり学生が託児



里親子キャンプで子どもたちや里親さんとふれ合う相原ゼミ学生

ボランティアを依頼されたりしています。特に、託児ボランティアは子どもとの動きについていける若い力が必要なので、里親総会時やサマーキャンプの際の子ども遊び相手、保護者がミーンティングをしているときの託児などへ毎年のようにゼミの学生が参加しています。また、児童養護施設の夏祭りに学生を連れて行き、施設の方々と交流することもあります。それらは、学生が現場に触れる大切な機会となるだけでなく、具体的な活動を通してお互いに

良好な関係が作られれば、学生が卒業論文を書くにあたっての貴重なデータ収集先にもなります。

問 その中で、特に苦心されているようなことはありますか？

やはり、施設や機関と良好な関係を作ることでしょうね。そして、活動に参加する学生たちが「やってよかった」と思えるようになるための連絡や調整、事前の準備なども非常に重要です。そのためには、まず教員である私自身が先方と良好な関係を築き、学生との橋渡しが出来るようにしなければいけません。当然、こまめな連絡や必要に応じ先方に出向くなどの労力も必要になります。これらを丁寧に行うことにより良好な関係が作りやすくなると思います。

問 学生たちや地域の方々の反応はいかがですか？

相原 おかげさまで、現在のところ機関や団体からは非常に良い評価を頂いています。また、学生たちも元々子どもたちと関わることが好きなメンバーばかりですので「やってよかった」「また参加したい」という学生が多いようです。そして、中には丁寧なお礼状を下さる団体さんもあり、次年度以降も引き続きお願いしたいとの声が寄せられたりしています。さらに、このようなプラスのメッセージは確実に学生たちに届くので、それが学生たちのモチベーションを引き上げると感じています。循環が生まれていると感じています。

新任紹介

本年度、新たに6名の先生が加わり、ますます教育体制が充実してきました。これまで様々な分野でご活躍されてきた新任の先生方をご紹介します。

福祉心理学科

上野永子 講師



上野永子 先生

● 専門

臨床心理学、発達精神病理学、アタッチメント研究、不適応に陥った子どもとその家族の支援

● 担当科目

児童福祉心理学、保育心理学演習。

保育実習Ⅰ、保育実習指導A

● メッセージ

みなさん、こんにちは。4月に福祉

心理学科に着任した上野永子（うえののりこ）です。どうぞよろしくお願ひします。

私は今まで、臨床心理士として多くのクライアントさんと出会ってきました。そのような出会いを通して、人が「自分はどのように生きたいのか」を考え、悩むことは大事なことなのだと考えるようになりました。大学生活の中で、みなさんが自分の生き方について悩みつつ前進していくことを教員としてお手伝いできればと思っています。

野田日出子 助教



野田日出子 先生

● 専門

音楽、保育

● 担当科目

保育実習

● メッセージ

野田日出子と申します。

これまで約15年ほど、静岡市内の市立幼稚園、私立保育園、そして学園内の精華幼稚園にて、保育の仕事をしてきました。

保育者は、子どもにとって初めて出

会う先生であり、時には友だち、お母さん、兄弟、遊びのリーダーなど、様々な関係を築けます。それが何よりの魅力だと思います。その魅力を伝えながら、保育者を目指す学生の皆さんをサポートできればと思っていますので、よろしくお願ひします。

山下紗織 助教



山下紗織 先生

● 専門

保育学、児童文化

● 担当科目

保育内容演習D(言葉)、保育実習

● メッセージ

私は伊豆で生まれ育ちました。山で秘密基地をつくったり、虫や花をとったり、満天の星空を眺めたり：そんな子ども時代を過ごしたことを懐かしく思い出します。みなさんはどのように育ちましたか。

学部3年生のころ、0歳の子どもに触れたことをきっかけに保育の魅力に惹かれ、それから「ひとが育つとはどういうことか」と考えるようになりました。子どもっておもしろい、なんと

なく子どもがいる空間が好き、子どもを見ると思わず笑顔になっちゃう：というみなさん、おしゃべりしましょう。子どものこと、保育のことを一緒に考えていけるのを、楽しみにしています。

医療福祉学科

赤井朱美 教授



赤井朱美 先生

● 専門

社会保障法(福祉関係法規)、医療法、生活保護法)

● 担当科目

日本国憲法、生活保護、現代社会と福祉

福祉

● メッセージ

このたび、医療福祉学科に着任いたしました赤井朱美と申します。よろしくお願ひいたします。

私の専門は社会的弱者の人権保障です。社会保障法という分野のなかの、特に生活保護法を研究しています。「生活保護法」は、社会福祉学では「公的扶助」

といわれる分野に該当します。生活保護を受けるということは、病気で働けなかったり、障害を抱えていたり、といった、他の福祉分野の要素が複数に重なった結果、生活保護に至ります。障害のある方、一人暮らしのお年寄り、母子・父子家庭といった単親家庭、難病患者、孤児、ホームレス、生活保護受給者など、生きていく上でいろんな苦しい事情を抱えている人々をいかに支えるしくみを作るかを考えています。病気や生活苦は誰にでもありえる人のリスクです。みなさんと一緒に「たすけあい」「ささえあい」とは何かを考えていきたいと思います。皆さん方の若い感受性が鍵です。

高橋賢充 講師



高橋賢充 先生

●専門

コミュニケーション・ソーシャルワーク

●担当科目

相談援助の理論と方法、相談援助演習、相談援助実習、相談援助実習指導

●メッセージ

このたび医療福祉学科に着任いたし



西尾敦史 先生

健康福祉学科

西尾敦史 教授

ました。これまでは社会福祉協議会で北海道という広域における地域福祉、在宅福祉、ボランティア活動の推進、地域福祉権利擁護事業（日常生活自立支援事業）や、高齢者や障がい者に対する総合相談など18年ほど経験してきました。また、教員として社会福祉士の養成にも携わっていました。北海道では地域の少年野球チームのコーチ・副団長を4年間やっていたので団員の子どもたちと離れるのがとても辛かったです。こちらでは心機一転、社会福祉の道を選んだ学生さんたちがいきいきと学べるように切磋琢磨しながら共に学びを深め、私が実践や研究で経験し学ばせていただいたことを、少しでも多く伝えていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

●専門

社会福祉学、福祉政策、コミュニケーション

●担当科目

現代社会と福祉、相談援助演習、相談援助実習

●メッセージ

はいさい。沖縄の言葉で、こんにちは。会議の冒頭でこうあいさつされるとナイチャー（内地人）の私はびっくり。

3月まで勤めていた那覇市では、ウチナーグチを推奨するする「ハイサイ・ハイタイ運動」を推進していました。

沖縄県には「しまくとうば（島言葉の日）に関する条例」まであります。

なぜ、わざわざ方言を使う運動をしたり、条例をつくる必要があるのか。

かつては方言を使うと「方言札」をぶらさげさせる強制的な標準語教育がありました。最近では、介護現場などで方言をしらないために高齢者とのコミュニケーションが取れなくなってしまうといわれています。



左より、野田先生、赤井先生、上野先生、山下先生、西尾先生、高橋先生

言葉は、その生活や文化と切り離して存在することはできません。暮らしの急速な本土化、またはアメリカ化はグローバル化と言いつてもいいかもしれませぬ。そんな時代を生きる私たちは何を大事にしなければならぬのか、みなさんといっしょに考えていきたいと思っています。

おめでとう

介護福祉士・社会福祉士 ダブルライセンス取得

のべ31名が合格

この3月に健康福祉学科は、45名の1期生を社会に輩出致しました。その内28名が介護福祉士の資格を、

3名が社会福祉士国家試験に合格しました。卒業生に対しては、県内外から地域や高齢者・障害者施設での活躍が期待されています。

取得したダブルライセンス 北原千夏さんと武藤智美さん

今年度の社会福祉士国家試験は、昨年に比較して苦戦したという報告の中で、健康福祉学科の北原千夏さん(左下写真左)と武藤智美さん(同右)がダブルライセンスを取得するという快挙を達成しました。

学習方法を工夫

2つの国家資格を取得するという事は並大抵の努力だけでは成し得ません。彼女たちの4年間の時間割は非常に厳しく、長期休暇はほとんど実習でした。試験対策講座も時間割の都合上すべてに参加することができませんでした。そのため、授業に集中する事、空き時間を有効に活用する事、過去の出題

を中心に基本的知識を確実に覚えこむなど、学習方法を工夫して試験に臨んだのです。

高めたモチベーション

北原さんは、介護・社会福祉の実習を通じて、福祉資格保有者を社会が必要とされている事を実感していききました。武藤さんは、実習で出会った利用者の様子を思い出し、国家試験に対してのモチベーションを高めていったのです。

震災ボランティア支援も

4年間の大学生活に対し、武藤さん

には日本介護福祉士養成施設協会より会長表彰がありました。北原さんは震災被災地ボランティアに何度も支援に出かけました。北原さんは、卒業式の答辞で、高齢社会において自己実現を目的に、地域で暮らすあらゆる人を支える福祉人として成長したいと、社会人としての決意表明をしました。

4月から社会人、新たな目標へ

4月から2人とも高齢者施設で相談援助のできる介護福祉士として勤務されます。5年後には介護支援専門員の試験を受けたいと希望を持っています。

(健康福祉学科助教 前川有希子)



在学期間中に優秀な成績を修め、卒業式で答辞を読み上げる北原千夏さん



学位記を授与され晴れやかに

診療情報管理士への道

県内唯一の養成学科として

医療福祉学科は、静岡県内唯一の診療情報管理士の養成学科として認定されています。

昨年度は3名の合格者が、それぞれ診療情報管理士として、静岡市立清水病院、焼津市立総合病院、浜松赤十字病院に就職しました。

今年度は3年生6名が合格し、現在、就職活動中です。

診療情報管理士とはどんな仕事

診療情報管理士の仕事には、カルテ（診療録）の管理、入院費の計算といった医療事務の分野のほか、電子カルテ入力などの医師事務補助もあります。そのフィールドはますます広がっています。

資格取得のための方法

診療情報管理士の資格を取るためには、2つの方法があります。

1つは短大卒以上の学歴で医療事務などの実務に就きながら日本病院会の通信教育を二年間受講し診療情報管理士の認定試験を受験する道。

もう1つは、高校卒業後、日本病院会が認定した専門学校・短大・大学で所定の教育課程を終了し、認定試験を受験する道です。

いずれの道も認定試験に合格しなければ診療情報管理士の資格は取得できません。

4年生大学で学ぶ利点

高校卒業後、日本病院会が認定した専門学校・短大・大学で学ぶ場合、それぞれの様な違いがあるのでしょうか。診療情報管理士を養成する課程は専門学校・短大の場合でも3年間学ぶ必要があります。そして、卒業年次に3年次に診療情報管理士の認定試験を受験します。

これに対し、大学で診療情報管理士の資格を取得する場合、専門学校・短大と同じく3年以上の教育課程を修了した後に、認定試験を受験することが

できます。大学は4年間ありますので、3年次に合格しなかった場合は、4年次にもう一回認定試験を受験することができます。



診療情報管理士認定試験受験対策講座の様子。受講生は皆真剣

2度受験できるメリット

つまり、4年生大学では在学中に診療情報管理士の試験を2回受験することが出来ます。このため、受験の機会が増えるばかりでなく、就職活動が有利になるのです。これは大きなメリットです。

3年次に診療情報管理士の認定試験に合格すれば、あとは卒業することによって診療情報管理士として認定されます。4年次の就職活動の時に「診療情報管理士認定試験合格」と記載する事も可能なので大変有利です。

実際、今年卒業した医療福祉学科第1期生は3年次に診療情報管理士認定試験に合格したことで、3名全員が診

療情報管理士への道に進むことができました。

診療情報管理士になるために

1年次は、カルテを読み取るために必要な医学の勉強をします。

2年次は病院という組織や診療情報管理士の実務、医療事務などを学びます。

3年次ではこれまでに学んだ知識を医療現場で確認し、実務の実際を学ぶために、3週間の病院実習をします。

本学の受験支援体制

3年次に受験するにあたって、模擬試験や受験対策講座の実施など、本学教員が一丸となって受験を支援しています。

本学でチャンスを活かし、皆さんの将来の夢をかなえてみませんか。

(医療福祉学科准教授 横溝一浩)



何冊もの厚いテキストを読みこなす受講生



病院実習報告会の様子

社会福祉士

新卒合格者は静岡県内

1位

厳しかった合格率

この1月に実施されました精神保健福祉士及び社会福祉士の国家試験の結果

果は、どちらも過去最低の全国合格率となりました。

本学の健闘

社会福祉士の全国合格率が18.8%という非常に厳しい状況の中、学生達はベストを尽くし29.1%が合格を手にすることができました。精神保健福祉士においても、全国合格率56.9%で、本学学生の合格者は全国平均を上回る58.8%となりました。

出題傾向の変化

今年、国家試験の出題傾向が大幅に変わり、正答を2つ選択するといった形式が取り入れられ、学生達の戸惑いや動揺も大きく心理的にも影響を与えました。実際の国家試験では、出題

される問題の幅の広さや深さが毎年変化いたします。しかし、過去問題だけをやっていたら通用するものではなくなってきました。

今後の対策として

私達も国家試験対策に変化をもたせながら、学生のモチベーションを高められるよう学生と共に歩んでいきたいと考えております。いよいよ5月！また新たな一歩から、一人でも多くの学生が社会福祉士及び精神保健福祉士の国家資格を手に来れるように教職員一丸となってサポートしてまいります。

(福祉心理学科教授
長坂和則)



学内で実施された模擬試験を受験する学生



国家試験会場の入口で最後まで粘り強く晩勉強をしながら試験の開始を待つ学生たち



本学が誇るキャリア支援課

就職内定率5期連続95%以上

就職難の時代に、5年連続95%の就職内定率をあげてきた、キャリア支援課の杉山保雄課長に、その実績の「秘訣」を聞いてみました。

問 まず就職実績について教えてください。

杉山 本学の就職内定率は、開学以来5期連続して95%以上を達成しています。

問 どうして、そんなに高い実績が続いているのですか？

杉山 就職氷河期といわれて久しい経済状況の中、このような高い実績を残せているのは、本学が時代に必要とされている人材を輩出しているからに他なりません。

また、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、診療情報管理士などをはじめ、福祉・医療の分野で活躍が期待できる資格取得を目指すため、学生は、早い時期から講義や実習に励み、「取り組む姿勢」を身につけていきます。

特に福祉・医療の分野においては、社会からの期待に応えられる多くの人材を送り出しており、高い就職内定率に結びついています。そして、福祉を学んだからこそ身につけた「対人能力

の高さ」を必要とする企業にも多くの人材が採用されています。本学学生の特長の一つである「優しさ」や「支援するチカラ」は、あらゆる企業で必要とされるものです。開学以来の就職先の分野は、福祉・医療系が58.34%、企業が38.5%、公務員・教員が3.16%です。

問 どのようなところに就職しているのですか？

杉山 福祉や医療の分野では、聖隷福祉事業団、静岡県済生会、浜松赤十字病院、ねむの木学園、静岡県立病院機構など全県・全分野におよびます。

問 企業への就職もあるのですか？

杉山 東日本旅客鉄道、東芝、ネスレ日本、焼津信用金庫など、多方面にわたります。

問 公務員にはなれますか？

杉山 静岡県（児童指導員、がんセンター）医療社会福祉）、静岡県警察、静岡県立清水病院、焼津市立総合病院などに就職しています。教員になる人もいます。

問 就職必勝のための独自のシステムがあるのですか？

杉山 まず、キャリア支援プログラムがあります。

入学時から4年後の卒業・就職を見すえて、計画的にキャリア教育を推進しています。本学の教員だけでなく、福祉・医療分野と企業分野から外部講師を招き、より実践的な「キャリア支援プログラム」を実施しています。

1年次には、「大学生活をデザインする」をテーマに大学生活を有意義に送るための心構えから学びます。自己理解、他者理解を深め、コミュニケーション能力や論文の向上を目指します。



スーツを着用してキャリア支援プログラムに参加する学生

もスタートします。

3年次には、「就職活動の実践力を鍛える」をテーマに就職活動に必要な知識や技術を学ぶと共に施設・企業研究、職種研究を進めます。ルールやマナーをはじめ、筆記や面接などの採用試験対策を徹底的に学習し、内定を勝ち取るための実践力を身につけます。

問 全学的な支援体制があるのですか？

杉山 はい、就職部長の長坂和則教授を軸に、各学科からの教員とキャリア支援課職員で「キャリア支援委員会」を組織し、支援方針の決定や情報の共有を図っています。様々な情報をいち早く共有することで、素早い対応を指しています。

また、大学3年の12月にスタートする就職活動を支援するため、キャリアカウンセラーによる「就職相談日」や外部講師による「就職ガイダンス」を実施しています。

問 学生の希望を優先したきめ細かな対応をしていると聞きましたが。

杉山 キャリア支援課では、私と、藪崎仁嗣係長、西廣伯恵主任の3名のスタッフが常駐し、就職先の斡旋はもとより、履歴書作成や面接練習など実践的な支援を毎日行っています。また、福祉・医療分野に進むか、企業を目指すか、進路の選択や業種・職種に関する相談にも対応します。就職希望者全員の内定を目指し、学生一人ひとりの状況に応じた、細やかな個別支援が本学の特長です。

勉強と仕事の両立のために、私は走る！

今年も名古屋ウィーメンズマラソン完走!!!

昨年、現役のピアノの先生が本学に一年生として入学しました。福祉心理学科の長瀬美奈子さんです。心理学を専攻し、社会福祉士と精神福祉士をめざしています。趣味はなんと、42.195のマラソン完走。今年、4度目の大都会大会制覇を成し遂げました。そのバイタリティの理由は？

人生何が起ころかわからない



野口みずき選手ら先頭集団、長瀬さんはどこ？

自分がフルマラソンを4度完走したり、再び学生生活を送ることになるとは、7年前には思いもしませんでした。

「なぜ走るの？」とよく聞かれました。最近では「なぜまた大学で勉強するの？」という質問も増えました。「走りたくなるから」「勉強したいから」では、納得してもらえないようです。今年の3月10日、

昨年に続き名古屋ウィーメンズマラソンに参加し、レース中に「なぜ走るのか」「なぜ勉強するのか」を考えました。

友人の急逝が、私を……

ランニングをはじめたのは7年前。幸せの絶頂であった友人が突然なくなったのがきっかけでした。不慮の事故でした。「私も明日は保証されていない」と感じたのです。「後回しにしない」「すぐに行動する生き方をしなければ」と真剣に考えました。

仕事や忙しさを理由にすれば、言い訳はいくらでもできました。理想はあっても、現実を受け身な生き方だったのです。でも、急逝した友人が、私に



サングラスで颯爽と

一歩を踏み出させたのです。その最初がランニングでした。

私の精神安定剤

健康、スタイルの維持、ストレス解消、達成感など、ランナーが走る目的は数多くあります。私は、とくに精神的健康のために走っていると感じています。悩みや問題が、走っている間に解決してしまうのです。そして、走り終わると気持ち前向きになっていきます。私の精神安定剤なのです。

完走した4度のマラソンは東京（日本最大で参加3万人）、香港（世界最大で6万5千人）、名古屋（世界最大の女子マラソンで1万6千人）と、どれも

大都会の大規模大会でした。あえて選んだのです。何万人もの人たちが一齐にスタートする瞬間がたまらなく好きなのです。誰一人として後ろを振り向かず、前に向かって勢いよく走り出すのです。自分もこうしたポジティブな集団の一人として、大都会に溶けこんでいるなんて、すごい感動です。

完走ネックレスはティファニー

とくに名古屋は女性限定なので、誰もがお姫様扱いしてもらえるサーピスが盛りだくさんです。前夜祭から盛り上がり、完走するとレッドカーペットが敷かれたゴールの先に銀のお盆を持ったイケメンのタキシード隊がいるのです。その好みの人の前に駆け込むと、優しい言葉と素敵な笑顔で、ティファニーブルーの箱を渡されるのです。完走記念のネックレスです。ちよっと不純ですが、これも楽しい動機です。



完走のご褒美は花冠とティファニー